

事項	フェストロリウムの奨励品種「東北1号」の特性		
ねらい	本県に適するフェストロリウムの品種を選定するため、生育特性及び生産性を調査した結果、平成20年に「東北1号」が既存品種と比較して耐病性、永続性及び収量性に優れることが明らかとなり、平成25年から種子が販売されることから奨励品種として普及に移す。		
普及する内容	<p>1 来歴 東北農業研究センターにおいて、既存のフェストロリウム品種「エバーグリーン」、 「Tandem」及び「Paulita」を基礎集団として、集団選抜及び母系選抜法により育成された我が国初のフェストロリウム品種である。</p> <p>2 特性の概要（標準品種「エバーグリーン」との対比）</p> <p>(1) 発芽の良否：同程度で良好である。  (2) 越冬性：同程度である。  (3) 早春の草勢：やや劣る。  (4) 出穂期：1日程度遅い。  (5) 越夏性：やや優れる。  (6) 秋の草勢：同程度である。  (7) 草丈：各番草ともやや高め。  (8) 病害性：優れる。  (9) 収量性：乾物収量は利用1年目は同程度であるが、利用2年目以降は多収で、3か年平均で104%と多収を示す。  (10) 永続性：優れる。</p>		
期待される効果	粗飼料の安定生産に資する。		
普及上の注意事項	耐湿性に優れる特性があるが、2・3番草の草勢維持のためには、1番草収穫時にトラクターの轍ができない程度の土壤水分条件が望まれる。（東北農業研究センター発行「東北1号の栽培マニュアル」より）		
問い合わせ先（電話番号）	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対象地域	高標高地及び津軽地方の夏期高温地帯を除く
発表文献等			

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 生育特性

(平成17～20年 青森畜産研)

形 質	品 種 名		備 考 (評点法)
	東北1号	エバーグリーン (標準品種)	
発芽の良否	7	7	1(極不良)～9(極良)
定着時の草勢	7	6	〃
越冬性	5	5	〃
早春の草勢	5	6	〃
出穂始期	5月30日	5月29日	月日
越夏性	5	4	1(極不良)～9(極良)
病害程度	2	4	1(無・微減)～9(甚)
草丈(1番草)	89	83	cm
草丈(2番草)	79	68	〃
草丈(3番草)	40	36	〃
草丈(4番草)	37	31	〃
秋の草勢	5	5	1(極不良)～9(極良)
秋の被度	53	55	%

(注) 1 発芽の良否、定着時の草勢は平成17年秋の調査。

2 1以外の形質は全て3か年平均。

3 病害程度は平成19年4番草に冠さび病が発生。

表 2 利用年次別乾物収量

(平成18～20年 青森畜産研)

品 種 名	利用1年目 (平成18年)	利用2年目 (平成19年)	利用3年目 (平成20年)	3か年平均
東北1号	1,246 (100)	1,042 (106)	1,035 (108)	1,108 (104)
エバーグリーン(標)	1,251 (100)	983 (100)	955 (100)	1,063 (100)

(注) ( ) 内数字は標準品種を100とした指数。

耕種概要

1 試験場所 畜産研究所内圃場

2 播種期、播種量及び播種方法 平成17年9月9日、3.0kg/10a(東北1号) 2.5kg/10a(標準品種)  
散播種

3 施肥量(10aあたり) 土壌改良資材:炭カル300kg、20%ようりん125 kg  
基肥: N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=5-5-5 kg  
追肥:(早春) N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=15-15-10 kg  
(刈取りごと) N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=21-14-14 kg

4 刈取期 1番草:標準品種の出穂期

再生草:標準品種の草丈が70～80cmに達した時点で一斉刈りし、年4回刈取り